

2018年9月6日

報道各社 各位

大塚国際美術館

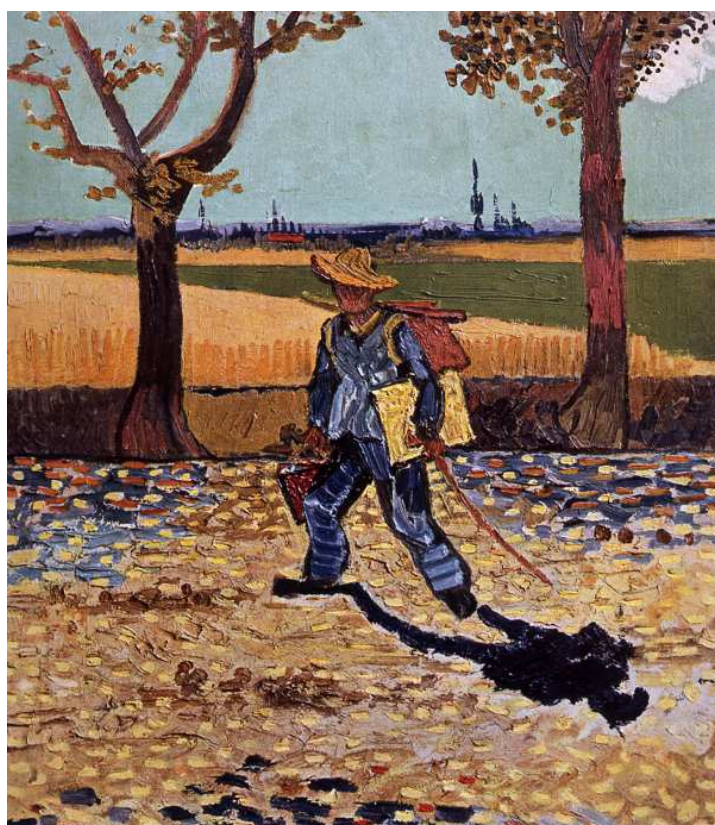
大塚国際美術館 開館 20 周年記念事業

ゴッホの 消失した自画像がよみがえる！

「タラスコンへの道を行く画家」

2018年11月3日(土祝)より公開、展示

大塚国際美術館（館長：大塚一郎、徳島県鳴門市）は、第2次世界大戦の最中、数奇な運命をたどり消失したゴッホ唯一の全身自画像「タラスコンへの道を行く画家」を陶板で原寸大に再現し、2018年11月3日（土祝）より一般公開、常設展示します。さらに同作品はもう1点制作し、かつて作品を所蔵していたドイツのマグデブルク文化歴史博物館（Kulturhistorisches Museum Magdeburg）へ贈呈することになっています。



この作品は、旧東ドイツの都市マグデブルクのカイザー・フリードリッヒ美術館（現マグデブルク文化歴史博物館）が所蔵しており、第2次世界大戦末期の1943年、空爆を逃れるため地下460mほどの深さにある巨大な岩塩坑に避難させました。その後、アメリカ軍によってこの地は解放されいくつかの作品は発見されましたが、この作品は見つかることなく、こつ然と姿を消してしまいました。

1990年の東西ドイツ統一まで東ドイツ領域であったことから、行方を探すことすら許されず、現在は岩塩坑に入るのも危険なため、これ以上の地下探索をすることは不可能とされています。

大塚国際美術館が失われた名画を再現するのは、2014年に再現したゴッホの幻の「ヒマワリ」以来、今回で2作目。陶板名画は色彩が褪せることなく半永久的に保存できることから、原寸大での鑑賞体験はもとより文化財の記録保存の在り方に大いに貢献できればと考えています。

■ 作品概要

画家名 フィンセント・ファン・ゴッホ (1853-1890)

作品名 タラスコンへの道を行く画家

サイズ 48 cm×41.8 cm

制作年 1888年 アルルにて制作、1945年消失

-参考-

■ フィンセント・ファン・ゴッホ

1853年、オランダ南部の村フロート・ズンデルトに牧師の息子として誕生。聖職者を志すが挫折し、27歳の時に画家の道へ。画商の弟テオを頼ってパリへ、やがて南仏アルルへと移住。親友ゴーギャンと共同生活を始めるが2カ月で破綻。その後、精神を病みオーヴェール・シュル・オワーズで自ら命を絶ち、37歳で亡くなりました。10年という短い画家生活だったが、その作品は多くの人に愛されています。大塚国際美術館は、2018年3月に開館20周年記念事業として、世界に点在するゴッホが描いた花瓶の「ヒマワリ」全7点を原寸大で再現、一堂に展示しています。

写真) ゴッホの花瓶に入った「ヒマワリ」全7点を一堂に鑑賞できる展示室



■ 「タラスコンへの道を行く画家」について

1888年、パリからアルルに移り住んだゴッホは、小高い丘の上に立つモンマジュール修道院とその周囲の風景に魅了され「この地を50回以上訪れた」と弟テオへの手紙に記しています。この作品に描かれた自画像は、当時の住まいである通称「黄色い家」から、タラスコン街道を通過して、修道院へとスケッチに出かける途中の姿と考えられています。右手に簡易イーゼル、左手にスケッチブックを持ち、南仏の強い日差しを遮るために麦わら帽子をかぶっていて、地面にできた濃い影からも、そのことをうかがい知ることができます。

■ 絵画の避難とその後

1943年、連合軍の爆撃を逃れるため、美術館は所蔵作品338点をマグデブルク市内から約30km南の町、シュタースフルト郊外の岩塩坑に避難させました。運ばれた絵画は、一番大きなエレベーターを備えていたシャフト（縦穴貫通坑）より460m下まで運ばれ、地中深くに隠されました。作品が埋められたわずか30m上は、ナチスドイツ軍のジェットエンジン工場が建てられアメリカ軍の最優先征服拠点となっていました。1945年、アメリカ軍による解放後、絵画が保管された場所は2度の火災に見舞われた上、現在は封鎖されており、これ以上の検索は事実上不可能となっています。

消失名画の研究を続けている、マグデブルク文化歴史博物館 前副館長のトビアス・ヴォン・エルスナー氏は、失ったとされていたマルティン・ルターの手稿がアメリカで発見された事例もあることから、このゴッホの絵画もどこかに現存しているのではと推測しています。同氏は「今回、遠く離れた日本でゴッホ唯一の全身自画像が再現され、注目をあびることで、作品発見につながる情報が得られるのでは」と期待を寄せています。



写真) マグデブルク文化歴史博物館で打ち合せをする (左から) 大塚国際美術館・絵画学術委員 千足伸行、マグデブルク文化歴史博物館 前副館長トビアス・ヴォン・エルスナー氏、大塚国際美術館 学芸部長 浅井智誉子

■ Kulturhistorisches Museum Magdeburg

(マゲブルク文化歴史博物館)

1906年に開館した美術館。マゲブルクはかつて塩、砂糖、軍事産業で栄え、これらの事業で得た豊富な資金をもとに、市民の文化的教育に役立てようとクリムトやセザンヌの作品を購入しました。「タラスコンへの道を行く画家」はそのうちの1枚で、1912年にベルリンの画商から購入した作品です。



■ シュタースフルト (Staßfurt) 岩塩坑

シュタースフルトはドイツのザクセン=アンハルト州にある町で、かつて岩塩の産出が盛んでした。その後カリウムの産出が中心となりましたが、地中深くにいくつもの巨大な穴があったため絵画を避難させるのにうってつけでした。

現在では地下を掘り過ぎたことによる地盤沈下が進み、絵画が運び込まれたシャフトもコンクリートで埋め立てられています。

写真)岩塩坑の模型を前に説明する、坑夫協会会長のジェラルド・マイヤー氏(右から2人目)



大塚国際美術館とは

古代壁画から世界26カ国190余の美術館が所蔵する現代絵画まで、1000点を超える世界の名画を特殊技術によって、陶板で原寸大に再現しています。レオナルド・ダ・ヴィンチ「モナ・リザ」、ゴッホ「ヒマワリ」、ピカソ「ゲルニカ」など、美術書などで一度は見たことがあるような名画が一堂に展示され、日本にいながら世界の美術館を体験できます。

【住所】徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

【TEL】088-687-3737 【FAX】088-687-1117

【URL】<http://www.o-museum.or.jp>

【開館時間】9時30分から17時(入館券の販売は16時まで)

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌日)/1月は連続休館あり/
その他特別休館あり/8月無休

【入館料】一般 3,240円/大学生 2,160円/小中高生 540円

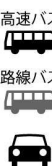
【アクセス】

関東から



羽田空港～徳島阿波おどり空港 約1時間
→路線バス「徳島空港」バス停より 約30分
東京・品川・新横浜より新神戸 約3時間
新神戸にて高速バス乗り換え

関西から



高速バス 大阪/神戸など～「高速鳴門」 2時間10分/1時間35分
→路線バス「小鳴門橋」バス停より 約15分
路線バス JR徳島駅より約70分、JR鳴門駅より約15分
※いずれも「大塚国際美術館前」下車
神戸淡路鳴門自動車道 鳴門北ICから車で約3分
専用駐車場より無料シャトルバス運行



環境展示:「スティーナ・ホール」

※画像は大塚国際美術館の作品を撮影したものです



《お問い合わせ》大塚国際美術館 学芸部広報担当

Tel:088-687-3737 Fax:088-687-1117 Mail:info@o-museum.or.jp